

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	庁舎外壁面に設置された垂直はしごの高さ約5メートル地点から手を滑らせ地面に落下
3. 体験した事例の中心的要素	事故当事者は、可搬ポンプの作動点検(毎日実施)で使用し、濡れて重くなった長さ10メートルの消防用ホースを、庁舎外壁面に設置されている垂直はしご(高さ16メートル)に乾燥させるため干そうと、落下防止措置を取らずに右肩にホースを掛けはしご登はんを開始した。約5メートル地点で、作業姿勢を取らずに当事者は左手ではしご横さんを保持し、右手でホースを肩から外して横さんに掛け直す際、バランスを崩して左手が横さんから外してしまい、上半身がはしごから離れ地面に足から落下し、左足首を骨折した(全治3ヶ月)。
4. 体験した事例の原因・理由	庁舎設置のホース乾燥設備が20mホース用であり、10mホースを干すと強風対策の下部固定ができない。そのため日常的に用途外の訓練用垂直はしご利用してホースを干し、乾燥させていた。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成13年6月27日 午前11時頃
2. 発生した当時の天候	曇り
3. 発生した活動現場	屋外：庁舎外壁面に設置された高さ16メートルの垂直はしご
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	墜落・転落
7. 事例体験時の活動	その他:日常の機械器具作動点検、[] []
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：日常の機械器具作動点検終了時の作業
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[24]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[2] 年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 []
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が [※] (何が [※])	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	ホースを右肩に掛け、はしご登はん開始	
経過2	当事者A	ホース落下防止措置をせず5M登はん	
経過3	当事者A	横さんにホースを掛ける際バランスを崩す	作業姿勢取らず
経過4	当事者A	横さんから両手が離れて足から地面に落下	
経過5	当事者A	左足首を骨折(全治3ヶ月)	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

● ●

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力がなかった。足元の安全が確保できていなかった。その他：手馴れた作業に対して油断が生じ、安全確保を怠った

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ
b. 注意力が欠如していた	
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

日々実施される手馴れた作業に対し、油断から来る安全確保不足及び用途外の設備を利用するにあたり、安全配慮が欠けていた。
--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

本事故事例を題材として、安全管理に関する所属教養を実施。再発防止に努めた。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

使用した消防用ホースを干して乾燥させるにあたり、当該事故が発生した垂直はしごは今後使用せず、はしご側面を利用したつるべ式のホース乾燥用設備を作成した。

○指揮・情報伝達の対策について

事故発生の経過



① 高さ16Mの垂直はしごに10Mホースを右肩にかけ、干して乾燥させるため登はん開始(ホースの落下防止措置とらず)。



② 高さ5M付近まで登はんし、はしご作業姿勢をとらずにホースを右肩から外して干そうとはしご横さんに掛け始める。



③ ホースを横さんに掛ける際、右手に意識が集中することで、上半身のバランスを崩して左手がはしご横さんから外れる。



④ 両手のはしご横さんから離れて高さ5M付近から地面に落下。左足首を骨折(全治3ヶ月)。